

受賞企業一覧 ※五十音順

部門	賞	企業名	選定理由
環境 サ ス テ ナ ブ ル 企 業 部 門	金賞	花王 株式会社	これまで環境課題に真摯に取り組み、課題の特定やKPIの設定、PDCAの見える化を進めてきた実績に加えて、近年ESGガバナンスを明確にし、経営の長期ビジョンや経営戦略にESG活動を有機的に統合し、イノベーションによる環境面での社会課題の解決を企業価値向上の軸の一つとして明確に定め実践してきたこと、またマネジメント層のコミットメント・発信力および優れた情報開示も高く評価される。経営者インタビューでは、ESGポリシーを事業活動の中に落とし込むべく、着実に取り組みを進めていることが理解できた。 目標達成において着実に成果を出し、グローバルなイニシアティブをリードすることなどを通じて世界での模範企業となることを期待したい。
	金賞	キリンホールディングス 株式会社	自然資本を起点としたビジネス上、環境にかかる卓越した情報開示の実践は必然であるが、開示姿勢と内容も極めて高いレベルである。またCSV経営を起点とした経済的価値と社会的価値の融合という理念が十分に浸透し、取締役会およびグループCSV委員会によるサステナビリティ・ガバナンスも強力である。経営者インタビューを通じて種々の取組が日々の企業活動のプロセスの中しっかりと根付いていること、とりわけ環境対応もそれを支えるガバナンス体制と共にしっかりと構築されていることが確認された。 TCFDへの取組もグローバル企業の中でも先進的になされており、環境分野におけるベストプラクティスを継続実践して頂きたい。
	銀賞	積水化学工業 株式会社	経営の中で環境貢献を価値創出のドライバーとしてきた歴史から、環境課題解決が経営の根幹に据えられ、カンパニー毎の施策推進のための明確な方針が示されているとともに着実に実践されている。また、緻密な環境ガバナンス体制が構築されている。 環境に関するKPIをリスク・事業機会の面から明確にしており、過去からのデータ蓄積がある。一方で、将来に向けた環境投資枠を設定するなどの先進的な取組を評価する。 策定中の長期ビジョンのもとで、環境課題への対応が具体的に経営戦略に統合され、中期経営計画に落とし込まれることを期待したい。
	銀賞	株式会社 日立製作所	伝統的な製造業からの変革期にあつて、事業と社会課題解決という理念が前面に打ち出される得心の行くものとなっている。 初開催のESG説明会ではトップのコミットメントを明確に示し、投資家等からのフィードバックを真摯に受け止める姿勢がみられる。サステナビリティ経営をグループ全体に浸透させるためのグループガバナンス体制が確立され、種々の課題解決に向けスピード感が増している。 気候変動を含む会社の重要環境側面について野心的な長期目標と、それを踏まえ3年毎に設定する「環境行動計画」に基づく着実なPDCA推進姿勢も高く評価される。
	銀賞	富士フイルムホールディングス 株式会社	CSR委員会をESG委員会に改組するなどの組織体制の強化は、激しい外部環境の変化への組織対応として高く評価出来る。また、広範囲に亘るCSR（ESG）活動の長期目標を中心に展開される情報開示は示唆に富むメッセージ性がある。事業との関係性から重要性を抽出して説明できている点も評価できる。RE100加盟など野心的な目標を設定し、達成に向けた取り組み姿勢も高く評価できる。 長期ビジョンが中期経営計画に具体的に落とし込まれることにより、サステナビリティ経営が一段と実効性をもって推進され、環境課題への対応が一段と加速することに期待している。
投 資 家 部 門	金賞	第一生命保険株式会社	第一生命は、気候変動を重点テーマとして掲げ、再生可能エネルギー関連事業への投融资やグリーンボンド等に積極的に取り組むとともに、炭素税の影響分析や座礁資産の影響分析に基づく信用ランク設定を行うなど、気候関連情報の体系的な統合評価手法を構築している。選定委員会では、上記の取組に加え、これまで果たしてきた業界におけるESG金融の普及に資する活動を高く評価した。
	金賞	ニッセイアセットマネジメント 株式会社	ニッセイアセットマネジメントは、企業価値との関連性の観点から厳選した独自のESG評価項目について、投資先の開示情報や企業対話をもとに行ったESG評価結果を踏まえてエンゲージメントを実施している。さらに、SDGsに着目したファンドの設定やTCFDへの対応など、ESGに関する取組の拡大を積極的に進めている。
	銀賞	アムンディ・ジャパン 株式会社	アムンディ・ジャパンは、欧州で資産運用額最大の資産運用会社であるアムンディの一員として、ESG要素を考慮した取組を一貫して展開をするとともに、個人投資家向けにSMBC・アムンディ クライメート・アクションを、機関投資家向けにはAmundi Planet - Emerging Green One等、低炭素社会の実現を支援するためのファンドの組成を積極的に実施している。選定委員会では、国内外におけるESG金融の普及に貢献している取組を評価。
	銀賞	ロベコ・ジャパン 株式会社	ロベコ・ジャパンは、ESG要素をポートフォリオ構築プロセスに体系的に取り込み、グローバルで活動を展開するロベコの日本法人。ロベコでは、ESGにフォーカスした投資戦略においてESG目標を設定し、温室効果ガスやエネルギー消費等の環境フットプリントのレポートを開示している。選定委員会では、ESG要素を含めた体系的な取組と日本のESG金融に対する貢献を高く評価した。

ボ ン ド 部 門	金賞	芙蓉総合リース 株式会社	芙蓉総合リースは、再生可能エネルギーの拡大の必要性を認識し、RE100に参加するとともに、中小企業、病院、教育機関及び自治体等各種団体向け「再エネ100宣言RE Action」への参加を促進するファイナンススキーム構築を目的に、グリーンボンドを発行した。選定委員会では、本事業の資金使途や発行スキームの新規性や独自性を高く評価するとともに、グリーンボンド市場の裾野の拡大につながる事業であると評価した。
	銀賞	東京建物 株式会社	東京建物は、国内最高水準のグリーンビルディングを対象とした国内初のハイブリッドボンドでの資金調達を実施した。発行においては、CBI基準に沿った取組を行い、透明性を確保している。また、対象アセットはグリーンビルディング認証の上位レベルを取得している。選定委員会では、上記内容に加え、500億円という資金規模も考慮して本事業を高く評価をした。
	銀賞	株式会社 明電舎	明電舎は、EV需要拡大を見据えた設備投資の資金調達をグリーンボンドで実施した。発行においては、ICMA等に準拠したフレームワークを策定し、第三者評価機関からの認証を取得して透明性を担保している。選定委員会では、日本企業初のCBI認証を取得した点、および中間財の設備投資を資金使途として設定した点を高く評価した。
金 融 サ ー ビ ス 部 門	金賞	S&Pダウ・ジョーンズ・インデックス	S&Pダウ・ジョーンズ・インデックスでは、Trucost社との連携により、二酸化炭素排出量の削減を目指す環境指数を開発し、その指数がGPIFで採用された実績を持つ。本指数の開発は、日本企業に対する排出削減へのインセンティブを付与するなど、各社のESG活動の取組を促進した。選定委員会では、環境分野における情報開示や企業の取組を促進した点を高く評価した。
	銀賞	SMBC日興証券 株式会社	SMBC日興証券は、グリーンファイナンスに注力する方針を明示し、体制を整備している。特にグリーンボンドの発行支援においては、実績を多く積んでいる。選定委員会では、様々な企業・団体に対してグリーンボンドの発行支援を行い、グリーンボンド市場の裾野を広げることに貢献している点を高く評価した。
	銀賞	損害保険ジャパン日本興亜 株式会社	損害保険ジャパン日本興亜は、防災減災費用保険や天候インデックス保険を開発し、国内外に広くサービスを提供している。これら活動は、自治体の自然災害対応を促進するとともに、気候変動適応ビジネスの拡大にも寄与している。選定委員会では、本業を通じた社会課題の解決を目指している点を高く評価した。
	銀賞	三菱UFJモルガン・スタンレー証券 株式会社	三菱UFJモルガン・スタンレー証券は、三菱UFJフィナンシャル・グループが今年度グループとして新設した2030年度までのサステナブルファイナンス目標（累計20兆円）の達成に向けて、国内マーケットにおけるグリーンボンド普及活動に注力し、これまでに多数の実績を有している。選定委員会では、黎明期からのパイオニアとして国内のグリーンボンド市場の形成に貢献している点を高く評価した。
融 資 部 門	金賞	三井住友信託銀行 株式会社	三井住友信託銀行は、サステナビリティを追求するビジネスの推進を取組の柱として、サステナブル金融に注力している。また、国連環境計画イニシアティブ（UNEP FI）が制定した各種原則にいち早く賛同するとともに、資金使途のない一般の融資においては、世界初のポジティブ・インパクト・ファイナンスを実現した。選定委員会では、顧客との対話を通じたインパクト評価やKPIの設定などのポジティブ・インパクト・ファイナンス（以下、PIF）に関する取組を今後も継続して進めていく姿勢や、国内外の銀行業界へのPIFの普及にも尽力している点を高く評価した。
	銀賞	株式会社 九州フィナンシャルグループ	九州フィナンシャルグループは、サステナビリティ宣言、環境要素を含む投融資に関する指針を策定し、さらにESG投融資の目標設定や体制構築を実施している。また、再生可能エネルギーや地域資源を活用した農業・観光業向け融資など、ESG関連の投融資の実施を多数有している。選定委員会では、包括的なESG金融に関する取組を他の地域金融機関に先駆けて実施している点を高く評価した。
	銀賞	株式会社 滋賀銀行	滋賀銀行は、長年に亘り「環境経営」を実践している。取引先の約6割から賛同を受ける「しがぎん琵琶湖原則（PLB）」に加え、58.2%の顧客に環境格付を付す独自の取り組みは特徴的である。また、ESG要素を加味した信用格付を対話に生かし、顧客のESG活動を促進している。現在は、SDGsを経営に取り入れた中期経営計画を策定。ESG金融を推進し、持続可能な社会の実現を目指している。選考委員会では、これらの多様な取り組みを高く評価した。
	銀賞	株式会社 日本政策投資銀行	環境格付融資を2004年から15年以上実施し、融資実績が668件1兆円を超える規模となっている（2019年12月時点）。環境格付融資では、顧客の環境経営とサステナビリティに関連する取組の評価だけでなく、評価結果のフィードバックやモニタリング、エンゲージメントなど、顧客に対する伴走支援にも取り組んでいる。選定委員会では、顧客の環境経営高度化に向けた伴走支援、ノウハウの地域の金融機関への展開など、同行が日本のESG金融の先駆けとして果たしてきた実績と日本全体での環境金融の普及に貢献している点を高く評価した。